

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花房 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」「書くこと」「我が国の言語文化」の領域では、全国平均を上回り、成果が見られた。「話すこと・聞くこと」の領域では、問題によって平均を下回った。「言語の特徴や使い方」「情報活用」の領域では、平均を下回り、課題が見られた。
	よくできた問題	「読むこと」登場人物の相互関係や心情の理解・表現の効果、「我が国の言語文化」読書の意義 等
	努力が必要な問題	「言語理解」話し言葉と書き言葉・主語述語の関係、「情報活用」情報と語句の関連付け 等
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域では、全国平均並みで、問題によって成果と課題が見られた。「データの活用」の領域では、多くの問題で全国平均を下回り、課題が見られた。
	よくできた問題	「数と計算」問題場面の数量関係の捉え方及び立式、「図形」見取図や展開図の理解 等
	努力が必要な問題	「変化と関係」速さ（時速と分速）の関係、「データの活用」グラフのデータ読み取りと分類・整理等

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・生活習慣の項目で、朝ごはんを摂ることや早起きは十分できているとする割合が高く、規則正しい生活が送れている児童が多い。若干、寝る時間が不規則になりがちと答える児童も多かった。 ・自己の生き方に関する項目で、自己に有用感を感じることや人の役にたちたいと考えることは高い結果であった。さらに、将来の夢や目標について具体的に考えたり、地域や社会に目を向けてできることを考えたりするなどして、さらに自己有用感を伸ばしていきたい。 ・友達関係に満足している、信頼できるとする割合は9割近くいて、多くの児童は安心できる友達関係を築いている。 ・学習でICTを活用している、役に立っているとする割合が9割以上で、ICT機器を日常の授業や家庭学習で効果的に取り入れている。 ・その反面、家庭でPCやスマートフォンなどを使う時間が長い児童が多い傾向も見られた。また、家庭でICT機器使用に関するルールや決まりを守っているとする児童は多いが、コンピュータリテラシーに関する指導を家庭・学校で協力して継続的に指導する必要性は感じる。 ・理科・国語科が好きだとする児童の割合は7割と高いが、算数科が少し苦手だとする割合が6割おり、苦手意識を持っている児童が多い。児童個々が課題のある領域の見直しを図ったり、スモールステップで取り組んだりして、個別最適に学習に取り組むなど工夫を行いたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

個々が自らの課題に取り組む個別最適な学習（デジタルドリルの活用含む）、TT指導などで個への指導の充実 等

② 家庭生活習慣等に関する取組

ゲームやスマートフォンの使用時間やコンピュータリテラシーの指導 等